

# 会報

# 遠藤章博士顕彰会

発行責任者  
遠藤章博士顕彰会  
会長 佐々田亨三  
☎0184-72-2045

## 遠藤章博士によるスタチンの 発見50周年を祝して

遠藤章博士顕彰会会長  
佐々田亨三

遠藤章博士は現在世界で使用されている全てのスタチンの元祖にあたるコンパクチンを、1973年（昭和48年）7月に発見しました。今年に記念すべき50年にあたります。発見50年にあたり遠藤章博士に、顕彰会を代表して、衷心より祝意を表すのは光栄なことでありませぬ。

私の手元に、遠藤章博士から頂戴した『スタチンの30年 遠藤章博士を祝う記念論文集』があります。この論文集から20年が経過いたしました。この論文集の中に、「コンパクチン発見30周年を祝して遠藤博士に乾杯」と題して、ダニエル・スタインバーク カリフォルニア大学医学部教授の記念集会でのスピーチが掲載されています。「…私はアキラ（章）の忍耐強さと不屈の努力を称賛したいと思えます。…コンパクチンは信念と忍耐の賜物なのです。…遠藤は多大な貢献で私達から尊敬され、感謝されています。コンパクチンの発見はベニシリンの発見に匹敵すると思えます。私たち全員がいつかストックホルムでお会いして、彼をもう一度祝福することになるかも知れません」と、2003年9月、京都国際

会館で国内外約80名の医師と研究者を前に遠藤章博士を讃えています。私達顕彰会はこの遠藤章博士の希有な世界的業績・偉業等を地域・県民・後生に、広く語り伝える使命とでも言うべき責任があります。同郷・地域として・同職として・研究者としてのよしみからだけではなく、遠藤博士の人命を救う研究の動機と臨床検証への情熱、そして数々の難題・課題の克服のための果敢なる挑戦の歩みと姿勢には、必ずや万人の心を傾注させることになるでしょう。



遠藤章博士の生家(左下)周辺の法内集落の風景

遠藤博士は、皆さん既にご承知のように1966年から2カ年アメリカに留学した際、アメリカではコレステロールが高く、動脈硬化・心筋梗塞に悩む人が多くいることを知り、帰国後、菌類を応用してコレステロールの低下剤を開発できなかったと考え、研究を続けました。三共（現第一三共）製薬発酵研究所（倉馬洪所長）で、1971年4月以降、約6,000株の微生物をスクリーニングした末、73年7月、青カビからコレステロール合成阻害剤MLI236B（コンパクチン）を発見しました。

スタチンは現在、天然半合成及び合成スタチンとして6種、心筋梗塞と脳卒中の予防薬として処方され、世界中で毎日何千万人の人々が恩恵に預かっており、まさに「史上最大の医薬品『スタチン』の発見と誕生」と讃えられております。また、現在スタチンの多面的効果としてアルツハイマー病、骨粗鬆症、多発性硬化症、一部のガン（大腸、肺、前



研究室の遠藤博士(昭和55年(ころ))

### 顕彰会会務報告

(令和5年1月～12月)

- 3月 2日 地域貢献事業 (東由利中学校卒業生への記念品贈呈)
- 4月 12日 会計監査
- 4月 28日 事務局拡大会議
- 6月 4日 理事会
- 6月 24日 総会
- 9月 8日 事務局拡大会議
- 9月 22日 スタチン発見50年・遠藤章博士展(～10月10日まで道の駅東由利)
- 10月 1日 講演会(由利本荘市総合開発センター有鄰館)
- 2日・4日 遠藤章博士の業績を讃えノーベル賞発表に臨む会(由利本荘市文化交流館カダーレ)
- 11月 10日 事務局拡大会議
- 12月 15日 会報第4号発行
- 16日 事務局拡大会議

### 会費・協力金・寄付金等

(令和5年11月末日現在)

会費 293,000円  
寄付金 30,000円  
今年度会費をお忘れの方は、令和6年1月31日までに納め下さるようお願いいたします。

新会員も募集しております。お近くで顕彰会活動に賛同していただけの方がいらっしゃいましたら、お誘い下さい。



### 講演会

## 「健康寿命の延伸のために」 スタチンの効用も含めて

立腹)などの予防への可能性も期待されております。こうした記念すべき年にあたり今年には、コロナ禍が続いている状況下ではあります。事務局会議を重ね、理事会を開き、6月に顕彰会総会を開催できました。その総会の議決に基づき、顕彰会事業を実施することが出来た。

遠藤博士顕彰会の展示内容の整備充実を図ること、顕彰会ホームページの更新、スタチン発見50年・「遠藤章博士展」(9月～10月東由利)ぶれつそ展示場、スタチン発見50年・遠藤章博士の業績を讃える会(10月由利本荘市文化会館カダーレ)、そして、講演会は、遠藤博士と同郷東由利出身で、秋田市立秋田総合病院副理事長の医学博士小松眞史先生による「健康寿命の延伸のために」スタチンの効用も含めて」の演題で盛大に行うことができました。その他、顕彰碑の維持管理、顕彰碑の案内板整備等の事業には、今年も東由利中学校の生徒さん方のボランティア活動の支援を受けたことに感謝をもって御報告いたします。また、由利本荘市への要望として、「顕彰碑を建立した東由利地域には、小松耕輔音楽四兄弟、絵本作家高橋宏幸氏などの偉人の顕彰室がある八塩生涯学習センターや、



10月1日に開催した講演会

令和5年度遠藤章博士顕彰会主催による講演会は、10月1日博士の出身地である東由利「有鄰館」において開催しました。講師は同じ東由利出身で秋田市立総合病院副理事長であり医学博士の小松眞史先生で、会場には町内外から沢山の方々が見物に来られました。講演会には、先生から提供された配付資料とパワーポイントにより説明がなされ、日本人高齢者の平均余命や生活習慣病のことで、3大死因の予防対策、がん予防・心疾患予防・脳血管疾患予防や動脈硬化の危険要因、メタボリックの症状や恐ろしさ、動脈硬化の危険因子、生活習慣の改善、コレステロールの生成や抑えらるべきこと、私たちの身近に起こり得る関心の高い問題をお聞きすることができました。また、遠藤章博士が発見した「スタチン」に関することについては、コンパクチンのこと、スタチンの大規模臨床試験成績のこと、スタチンの仲間、コレステロール治療薬スタチンの治療効果のこと等々の説明があり、それらの研究成果が遠藤章博士の数々の素晴らしい受賞に繋がっていると話されておりました。

この他、身体活動を高めることとして、ウォーキングのこと(一日8千歩)、片足立ち・カカト落とし・スクワットなどのロコモーショントレーニングについて説明がありそれらのことはテーマにある健康寿命に大きく関わっていることを学んだところでした。



由利出身の医学博士小松眞史氏を招いた講演会

参加者から、「東由利地区は他の地区と違い、芸術、文学、科学の活躍があり、眩しく輝いて見える、文化の殿堂に見える。常設展をもっとアピールし、人が集う場所になるようベンチの設置や植栽をするなど、素敵で人が行きたくなる場所にしたかどうか」との意見を頂いたことにもよるものです。

今年2023ノーベル賞発表は、10月2日は生理学・医学賞、同4日は化学賞の発表でしたが、残念ながら該当にならず、期待は来年に持ち越されることになりました。熱い期待を寄せて今年も、博士宅、文部科学省、東京農工大学と連携をとらせて頂きました。そして、カダーレ郷土室には市の関係者、私ども顕彰会の役員等、そして各新聞社、テレビ局等の記者の方々と2日、4日と集い、ストックホルムからの受賞決定の中継を視聴したところでした。

以上、今年の主な事業等について概略説明・報告させて頂きました。皆様のご理解・協力に對しまして心から感謝と御礼を申し上げます。

